

「柴北川を愛する会」、「九州郷づくり共助ネットワーク研究会（通称：共助研）」「大野川流域ネットワーク」 「黒松 family 青年会」等と合同で「合同田植え会」が実施されました。

1. 「合同田植え会」開催（10時～11時）

あいにくの雨の中、子供5名を含むカラフルなかっぱ姿の総勢26名が一列に並び、さみだれにかっぱ姿の田植えが実施されました。当日は大分市立西の台小学校おやじの会から親子69名が参加予定でしたが、雨のため不参加となりました。秋の収穫には参加したいとのことですのでにぎやかな収穫祭を期待したいと思います。今回、共助研からは、木寺リーダー、森脇サブリーダー、波多野会員、武市会員、武市会員のお母上、山下氏、濱田の7名が参加しました。中川会員、前田会員は都合で不参加となりました。

今回はわが共助研チームも手際が良くなり、地元の方の足を引っ張ることもなく、また、アクシデントも無く、1時間ほどで田植えは無事終了しました。

今年は梅雨に入るまでは雨が少なく、田植えの時期が心配されましたが、集中的な雨になり、予定どおりに田植えを行うことができ、ほっとしました。

ただ、いつもは穏やかな柴北川が今日は荒々しく流れ、自然の脅威を身近に感じたひとときでもありました。



田植えの様子

2. 昼食・物産販売・黒松神楽演舞（11時～13時）

田植え後、会場を旧長谷小学校体育館に場所を移し、昼食・物産販売・黒松神楽演舞の鑑賞を楽しみました。昼食は柴北川レディースの皆さんが手作りされた「炊き込みご飯」とお漬け物です。よく味のしみこんだご飯と、食べ放題のお漬け物に舌鼓をうちながら、黒松神楽を鑑賞しました。

神楽の演目は16年に一度、遷宮のおりに舞われる「豊作祈願の神楽」の他2番が舞われました。珍しい舞を無料で鑑賞でき、今回参加された方は幸運でした。また迫力の有る演舞に食べる手を休めながらの鑑賞でした。

物産販売は地元の特産品（しいたけ、野菜、まんじゅう等）、竹製品（地元三浦さんの手作り）の他、東北被災地支援ということで、福島県西会津町からジャム等、東北各県から日本



豊作祈願の神楽



被災地支援物産品の販売

酒を仕入れ販売されました。また、東北支援に行かれています「河童小屋」の三浦さんの支援のために募金箱がおかれまして。

田植え後の疲れた身体で演舞を行って頂いた「黒松神楽」のみなさん、おいしいお弁当を作って頂いた「柴北川レディース」の皆さん、物産販売等を担当された地元の皆さん、ありがとうございました。



地元特産品の販売

3. 「炭焼き小屋」視察

山桜の障害になる竹伐採の有効活用の一つとして竹炭製造が候補に上がっていますが、炭焼窯があるということでお昼の時間を利用して案内して頂きました。

道路のすぐ横で、利便性が良く、使いやすいという印象でした。

1 回当たり 20 俵ぐらいが製造でき、日数は炭の製造に 3 日、冷却を含めて 1 週間ぐらいの時間がかかるということです。「共助研」メンバーがどのように係わり、製造していくかが今後の課題になりそうです。



炭焼窯

4. 「柴北川を愛する会」と「共助研」との意見交換会（13 時～14 時）

参加者

「愛する会」：大塚会長、渡邊事務局長他 8 名

「共助研」：木寺リーダー、森脇サブリーダー他 5 名

共助研の木寺リーダーより、今年度の活動（案）ということで以下の活動項目（案）の説明と意見交換が行われました。

1) 田植え後の手入れ予定と稲刈り

① 田の草取りに共助研が参加可能か？

田植えを終わってすぐと、7月の終わり頃に除草剤をまけば草取りをしなくても大丈夫です。

2) 竹林整備

① 共助研側もチェーンソーワークが必要（準備予定）

前はのこぎりだけで作業が進まなかったので、今回は機械化でリベンジしたい。

「愛する会」の会員はチェーンソーを全員使えますので指導は可能です。

② 竹炭製造はぜひ挑戦したい



意見交換会の様子

視察した炭焼窯の使用は可能です。指導出来る方もまだおられます。

東国東郡森林組合は竹炭が製造が出来る人が立って入れる大きな窯を持っています。

窯を作る技術者が少なくなっているのです、新たな窯作りを通して窯建設の技術も伝承していきたい。

③チップ化、竹粉化考えられる。他の活用方法は？

竹の活用方法について以下の5項目について濱田より説明。

今後の活動の中で、出来るものから実施できればと思います。

竹の活用方法

- ・見る（竹工芸、くん煙竹、竹灯笼等）
- ・肥料（パウダー、発酵パウダー、堆肥）
- ・炭（竹炭、床下調湿炭）
- ・道具（竹製品、竹ハウス、いのしし防止）
- ・飲食（竹茶）

竹炭は難しいがやってみたい。簡単なのはチップにしてしまうこと、機械も借りることができます。来月の「愛する会」総会までに他にアイデアがあれば考えて欲しい。

竹灯笼については盆以外の日にするとか、秋祭りも午後6～7時頃に終わるので難しい状況にあります。

3) 山桜調査（新規に30本？）

- ①成瀬谷の続き（下流側）？
- ②巨大桜周辺？
- ③奥の院下流？
- ④その他新規

最初に手がけたところが少し残っているのでそこを徹底してやってはどうかと思います。

稲刈りが終わって秋頃に調査を行いたい。場所は今後協議して詰めて行きたい。

4) 山桜等季節毎の写真をHPへアップ

- ①山桜は第1段階は終了
- ②今後、季節毎の写真が集まれば追加可能

共助研のHPに桜を掲載しているが、彼岸花など、季節毎の桜以外の良い景色を掲載したい。

5) 「愛する会」主導の活動への共助研メンバー参加の可能性

- ①二ノ養殖池設置
- ②そば栽培
- ③飛び石設置
- ④その他

「共助研」がどこまで参加できるか、お手伝いできるかは不明ですが、イベントが具体的にになったら案内を頂きたいと思います。

「そば」は力を入れてやりたい。今年は2反、来年は5反ぐらいに広げたい。

イベントについては来月の「愛する会」の総会で検討したい。

6) 山桜保全団体との交流、情報交換について

- ①共助研側で相手を探した後、ご相談する？

（おおおいた森林組合「山桜日本一の里づくり」、「(NPO) グリーンシティ福岡」（志賀島での実績あり）、益田市金谷自治会他「金谷城山桜まつり」、助川保全クラブ（日立市）、岩木山桜会議（弘前市）など）

一番近くの団体から交流を深めて行きたい。

「山桜日本一の里づくり」は塚原の自治会が中心になってやっており、大野郡森林組合の専務が会員になっているのでいつでもアポは取れるが、当方の準備ができていないのが現状です。

7) 共助研側から都市住民、技術者への参加働きかけ

大分県を中心に共助研で実施中（波多野会員が渡邊さんとも相談中）

大分市民との交流から輪を広げていきたい。

8) 特産品の仲介販売の可能性

共助研側で事例等の情報収集中

しいたけ、かぼす、さつまいも、いちご、山菜等の特産品があると思いますが、機が熟したら「愛する会」と「共助研」で通信販売をすることも考えています。これは時間をかけて検討していきたいと考えています。

9) 閉会の挨拶：大塚会長

当初は外部の人を入れずに「愛する会」だけで充分と思っていましたが、こうして「共助研」の方と意見交換が出来るようになって良かったと思います。本日はお疲れ様でした。



（文責：濱田）